

がっこうめい 学校名	こうちけんりつこうちこうぎょうこうとうがっこう 高知県立高知工業高等学校
---------------	---

校長名： 平田 健一

所在地： 高知県高知市棧橋通 2 丁目 1 1 番 6 号

電話番号： 088-831-9171

(1) 学習指導要領に定める目標等の実現状況の把握に関する研究	
研究対象 教科等	工業（実習） 実習は、各学科において、共通的な基礎科目として位置づけられ、工業の中心となる科目である。機械実習、電気実習などのように、各学科の名称を冠して科目名とする事ができる。
研究主題	「実習」における観点別評価と授業改善

I 研究指定校の概要

1 学校・地域の特色及び実態

高知県のほぼ中央に位置する高知市、その高知市の中央に位置する本校は、明治 45 年 3 月（1912 年）に創立された、県内で最も伝統のある工業高等学校である。創始者の「工業富国基」という理念に基づいて、工業技術者養成のための私立教育機関として誕生し、公立の高知県立高知工業学校を経て現在、全日制 7 学科・定時制 4 学科を設置する県内でも最大規模を誇る工業高校として、優秀な工業技術者を輩出している。

また、工業に関する専門高校として、教育内容では進路と資格、部活動では文化面・体育面において、生徒たちが持っているそれぞれの能力を發揮できる教育環境をつくり、学校を活性化していくことが「特色ある学校づくり」と考え、「ものづくり教育」を通して進路・資格・部活動を大きな柱として、全国に誇れる学校を目指している。



本校の玄関付近

2 学校の概要（平成 21 年 5 月 1 日現在）

課程	学科	1 年		2 年		3 年		4 年		計	
		学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
全日制	機械科	1	40	1	39	1	40			3	119
	電気科	1	40	1	41	1	32			3	113
	情報技術科	1	41	1	35	1	41			3	117
	工業化学科	1	40	1	35	1	35			3	110
	土木科	1	41	1	38	1	34			3	113
	建築科	1	40	1	40	1	33			3	113
	インテリア科					1	35			1	35
	総合デザイン科	1	40	1	33					2	73
計	7	282	7	261	7	250			21	793	
定時制	機械科	1	19	1	17	1	18	1	8	4	62
	電気科	1	9	1	6	1	5	1	8	4	28
	土木科	1	14	1	7	1	6	1	7	4	34
	建築科	1	16	1	9	1	18	1	9	4	52
	計	4	58	4	39	4	47	4	32	16	176

教員数 115 名（全日制 78 名・定時制 37 名）

研究指定推進委員会（全日制 14 名）

II 研究の内容及び成果等

1 調査研究について

調査研究のねらいと対象

[調査研究のねらい]

工業の専門科目「実習」は、専門分野に関するすべてにわたり実践的・総合的に扱われる科目であり、原則として工業に関する科目に担当する総授業時数の 5/10 以上を実験・実習に担当すると示される工業の中心となる科目である。中心的な科目でありながら、統一的な評価規準が確立されておらず、担当教員の主観に任せた評価も多かった。そこで今回、2 年生の科目「実習」において、評価規準及び評価方法を確立し、生徒の学力実態把握・実習内容・指導計画を検証し、客観的な評価を実施し、授業改善を図る。対象科目の「実習」では、高等学校指導要領に示されている内容の「要素実習」、「総合実習」、「先端的技術に対応した実習」の中で、「要素実習」を取りあげ、各専門分野に対応した要素的な内容の実習で研究を実践することとした。

[調査研究の対象]

2 児童生徒の学習の実現状況と考察

第2学年 工業「実習」

分野(領域)	内容項目	具体的な単元(題材)	評価の観点
要素実習	機 械	旋盤実習	それぞれの単元(題材)について、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の観点項目を研究する
	電 気	電気工事	
	情報技術	プログラミング	
	工業化学	有機合成	
	土 木	水準測量	
	建 築	建築大工	
総合デザイン	空間構成		

本校は、平成15年度から授業改善委員会を発足させ、「授業が変われば、学校が変わる。授業が変わらなければ、学校が変わらない。」をモットーに、生徒と教員が共に手を取り合いアンケート集計や話し合いを進め、さらなる授業改善を目指している。しかしながら、まだまだ生徒の望む授業の在り方と教員の思う授業との間にギャップがあることは否めない。

そこで、今までの年間指導計画のづくり方では補いきれていなかった、より詳細な内容のまとめり・単元・各時間における評価規準・評価方法を設定し、その規準に基づいたワークシート及び評価テスト等の作成により、問題点や課題を洗い出す必要がある。

昨年度の生徒の学習評価については、それぞれの評価規準に対しA：十分満足、B：おおむね満足、C：努力を要するとして、評価を行った。特定の学科の評価でC(努力を要する)が多くでたが、専門的なコンピュータの取扱について、基礎的な能力が不十分であったり、授業の進度が速かったと考えられる点があった。評価Cの生徒については、補習等で全員が評価Bに達するまできちんと指導を行っている。また、評価表の結果をもとに「課題が難しかったのではないかな？」や「指導方法は適切であったか？」等の検証ができ、本年度につながる資料づくりができた。

3 評価方法に関する研究成果

各専門学科の個々の実習内容について、系統的な実習への取組や観点別評価方法を確立すべく研究を行う。また、どの学科をとってみても実践的技術者を育成するための中心となる科目であり、評価規準を作成して適切な評価を行うことは、実習以外の科目にとっても評価の参考となると考える。

<評価方法の具体的項目>

- ・授業における学習活動の観察
- ・ワークシートや提出レポートの記述内容の分析及び解析
- ・製作した作品のチェック
- ・単元終了時における評価テストや自己チェックシート等

現時点では具体的で十分な研究成果等が把握できていないが、本年度の課題として、以下の内容に取り組んでいる。

- ① 評価規準とより効果的な評価方法の研究
- ② 具体的な評価一覧表及び個人票の確立・実施(20年度は各科別に実施)
- ③ ワークシート、自己チェックシート、評価テスト、授業評価アンケート等の実施

各実習において生徒自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力を身に付けていけるよう、各要素実習の単元における学習指導とその評価の改善を進めることが重要である。また、学習指導要領の内容による評価規準や評価の観点が大切であることが理解され、より良い授業改善と学力の把握の研究を目指し今後も推進していく。

4 今後の展望

本年度の実施・成果と課題はまだこれからという学科があり、今後の方向性及び来年度の実践や調査研究等にどのようにつなげていくのか、評価規準の確認・評価方法の設定や確認・問題点や課題等について、昨年度より「学力の把握に関する研究指定推進委員会」を組織して、校長のリーダーシップのもと、教職員間の共通理解を図り一体となって取り組んでいる。また、成果の普及については、各年度この取組がどの程度学力の把握・授業改善に結び付いているかを分析して、本校のHP等で公開する予定である。